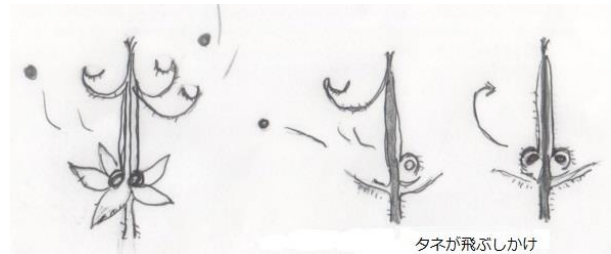


種子(タネ)の知恵 草本

植物は生えている所から動けません。でも実に巧みにどの植物も工夫を凝らしています。自らタネを飛ばしたり、風を利用したり、動物を利用したり、水を利用したり、時空を超えるものさえいます。そのいくつかをご紹介します。

《自らタネを飛ばす》

***ゲンノショウコ** (現の証拠) はフウロソウ科の多年草、別名神輿草。昔、薬草は貴重な存在でした。なかでもゲンノショウコは効果きめんのおなかの薬でした。受粉すると花柱の部分がぐんぐん伸びてロケット状になります。基部の実の部分がふくらんで一つの実に5個のタネができます。実が熟すと基部が軸から離れて発射の準備が整



いあとは晴れた日を待ちます。晴れた日、実が乾いて縦に裂け、同時にぐるりとまくれ上がりタネはピューンと投げ飛ばされます。最大1m位飛びます。

他に自らタネを飛ばすものに、カラスムギ、カタバミ、ツリフネソウ、タチツボスミレなどがあります。

《風を利用する》

***ガガイモ** ガガイモ科のつる性多年草。ふわりふわり晩秋の野辺を歩いていると5cm位のふわふわボールが風に漂っていることがあります。

タネ自体は平たく5mm位で、純白の絹のような毛はタネの一部が変化したもので種髪(しゅはつ)と言います。実の中でタネは毛をたたんだ状態でぎっしりと並び、実が熟して縦に裂けると種髪を丸く広げて旅立ちます。

***メマツヨイグサ** アカバナ科の2年草、北アメリカ原産で明治時代に日本にやって来て野生化しました。夕暮れどき、花が咲く様に感動した方も多いことでしょう。

晩秋にはたくさんの実が枯れ茎に並び(一つの実に100~200粒の小さなタネが詰まっています)先端が裂けて強風で揺れると塩こしょうを振るようにタネを撒き散らします。花を咲かせて実を結ぶとメマツヨイグサは枯死します。

アメリカの生態学者が長い研究の結果メマツヨイグサを含む数種のタネは土の中で長い



ガガイモの実



ガガイモの種



メマツヨイグサ

年月、発芽能力を保つことをつきとめました。メマツヨイグサは 80 年以上、ビロードモウズイカは 100 年以上、ハスは約 3000 年のものも、これらは時空を超えるタネでもあります。

《動物を利用する》

***オオバコ** オオバコ科の多年草。日本各地からアジアに分布し、道端や空き地など人や車に踏まれる場所に生え、花は穂状で一つ一つの花は小さく目立ちません。花はまず雌しべを出し、その後雄しべを出します。自分の花粉で受粉しないためです。実は 3～5 mm のカプセル型。実は踏まれると上半分がぱかっと外れ下の半分のカップの中に 4～8 個のタネが入っています。このタネは寒天と似た構造で水を吸うと体積が数十倍にふくれ上がり透明なゼリー状になります。ぬれたタネはペタペタと粘り動物の足、歩く人の靴や車のタイヤに付いて行く先々に運ばれる仕組みです。踏まれ強いだけでなく、踏まれることを利用して子孫を増やすたくましさがあります。



***タチツボスミレ** スミレ科の多年草。春に花（開放花）は咲き実ができますが、夏から秋にも実ができます。蕾のまま実を結ぶ閉鎖花です。自らの花粉でほぼ 100% 結実します。閉鎖花はコストが少なくてすむので晩秋まで次々に作られ、熟すと 3 つに裂けてはじき飛びます。タネの端にはアリ用のおまけ（エライオソーム）がセットされています。アリはタネを巣に運ぶ時おまけだけをかじりとるとタネを近くに捨てます。これこそスミレの思うつぼ。2 タイプのダブル保証で確実にスミレのタネは遠くに運ばれます。

***その他** ひつつきむしと呼ばれ、人の服や動物の毛に付いて運ばれる草の実もあります。キク科のノブキ、オナモミ、アメリカセンダングサ、イネ科のチカラシバ、バラ科のダイコンソウ、キンミズヒキ、マメ科のヌスビトハギなど他にもたくさんあります。鳥に運ばれるものはブドウ科のノブドウ、アカネ科のヘクソカズラなどがあります。

《水を利用する》

***ネコノメソウ** ユキノシタ科の多年草。花後、浅い椀型の実の中に茶色のタネが見えます。この中に雨粒が飛び込むと水滴と一緒にタネが飛び散ります。ネコノメソウの仲間のタネは同じ方法で旅立って行きます。

参考図書「種子たちの知恵」多田多恵子 NHK 出版
(文責 菅美紀子)

11月の観察会のご案内

- * 晩秋の森観察会 志文別コース 11月3日(火)10:00～14:30 自然ふれあい交流館集合
- * 秋のありがとう観察会 11月8日(日)10:00～12:30 自然ふれあい交流館集合
- * 西岡水源地自然観察会 11月23日(月)10:00～12:30 西岡公園管理事務所前集合